

『真岡市大産業祭』で自衛隊広報展を開催 ～自衛隊車両が圧巻の存在感、来場者の関心集める～



真岡募集案内所は、「実物の車両展示では、T・V等では感じ取れない迫力と存在感があり、来場者実際に触れてもらうことで自衛隊装備品の重要性、迫力、それらを操縦する自衛官の日々の訓練の厳しさ等を感じてもらおうことができると思っています。今後も広報展を活用し、国民の安全を守るための自衛隊の重要な任務と活動について理解を深めてもらうように取り組んでいく」としている。

自衛隊栃木地方協力本部真岡募集案内所（所長 古川3陸佐）は、11月23日（土）、栃木県真岡市で開催された『第32回真岡市大産業祭』において自衛隊広報ブースを出展した。

会場では、銀杏も色づき秋の深まりを感じる中、市内の産業・商業・農業を中心とした展示ブースが一堂に集まり各種活動をPRしていた。自衛隊ブースでは、中央即応連隊（宇都宮）の支援を受け、装備品展示（輸送防護車・軽装甲機動車・偵察用オートバイ）を行ったほか、制服試着体験、階級章展示、射的体験、進路相談コーナー及び家族会による自衛隊グッズ販売等が行われた。

広い展示会場の中でも特に、輸送防護車が圧巻の存在感を放ち、多くの来場者の注目を集め、車両を間近で見学した来場者からは大きな驚きと感嘆の声を聞くことができた。輸送防護車を初めて見たという男性は、「とても大きく頑丈で見た瞬間に威圧感を感じましたが、緊急時に海外の邦人を安全な場所まで輸送する役割を担う車両と聞いて納得しました。日本に数台しかない貴重な車両を見学できてよかったです」などの感想があった。さらに、自衛官の制服試着の体験者からは「軽装甲機動車と一緒にポーズを決めて写真撮影したい!」というリクエストが多く、撮影待ちの長い列ができるほどであった。中央即応連隊員からも「写真撮影を待つ列が長く、予想以上の人気ぶりに驚きました。来場者の皆さんの熱心な反応や関心に応えることができよかったです」との声があり、晩秋でありながらも気候に恵まれ、多くの地域住民が自衛隊ブースに立ち寄り、各展示を通じて自衛隊への興味関心をより一層深めていただく成果を得ることができた。

